寛永諸家譜

平氏十九冊之内
支流

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (76)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

島居　梶
金田　吉井
松田　宮脇
外田　三浦
猪俣

寛永諸家系譜傳

平氏
支流
島居

辛氏（しげうぢ）

香居法眼（かをりほうげん）

忠氏（ただうぢ）

傳門（でんもん）

浅草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

父子不和乃事あるてしうち三刑
渡て伯を

重茂　忠茂
因幡守　因幡守

重俊　重勝
源八郎　三右衛尉

忠勝　忠俊
宮内少輔　宮内少輔

忠吉　忠家
兵庫頭　藤右衛尉

重政　重春
伊賀守　伊賀守

重迎

藤兵衛

重賓

伊賀守

重元

久吉丈

忠次

久八郎

吉守

又一郎

鳥居又兵衛吉長ガ祖

系図不詳

忠明

源七郎

国立公文書館
National Archives of Japan

忠吉

伊賀守

清康君　廣忠卿　をうじ

東照大権現　てはけうくくまいり

大権現御幼少乃ときを忠吉勤番をこ

ゝろゝゝ御服なゝびてはて厨物番みな

を調進を平生忠節をぬきんでゝ

ぐゝ軍功あり傳聞本詳なゝ

忠宗

源七郎

討死をいたを乃戦場ゝ家事をゝ

元忠

長右衛門

てゝ

法名　幹渕

永禄二年尾刑桶狭間合戦仕候時
元忠お陣を書列中野原合戦の時
元忠お陣を
元亀二年
大橋現信と二方原にて合
戦乃時
大橋現の軍真義に敗北致せぎ
戦て矢疵をうけ元忠
まうる所乃鞍に前輪にあ所を使
則信玄撰を書るかなり
信玄書列城攻所に城小なる所を
通元忠乃城の案内をうかゝ
をめ城攻所にて時小城中
ゟ鉄炮をうゝ元忠股小あ所
家来板浦源八郎元忠を背をけて
ありぞ是にてその疵金と
以ともなを是れやまひあり
天正二年書列長篠合戦に元忠

かゝり

大将現て言くまり勝頼

の軍をやめて勝頼横田甚左衛門尉

百水右木氏栗田氏うけほう三人於

合七人言天狗の城て三人はその

名を言るさぞ

大将現者列て康臭中村小兵

衛坂相良五箇小小でとる為小

見をとりこむその時甲列ちはをひ

城中て法はは合戦乃事をとる為

この山へて城中へちかゝ戦乃無元忠

皆大て勝利を始ことくをもらさ

所横田甚左衛門乃ぎさる

同十年信長英濃ち伝法所を角

て甲列て殺白乃さき

大将現者列演松ち甲列小入為

元忠後校て ちくゝ陣をとる人一宿

一ちをちの軍後列田中ち城を

是時城中に薄田氏ありて是
とまゝ家を伝へ玉所なり鉄炮
をもつて元忠が兵をうち元忠馬を
捨て城色に入おもむき軍勢をた
づねて手うすくおれ元忠が勇切
なり
元忠後列府中に入おもむき海浜
と如月とき持舟乃城より鉄炮を元忠
が軍中に入うとも山城

[illegible]
水野後十郎 松平玄番三尾宗右衛門
小甲府に入て番をはたらむ
うちとき小田原より小糸左衛門佐
内後東甲列 東那に入きたり攻焼
元忠学てあまに入おもむき
左衛門佐内後東う海に入むかひ
黒羽に入て敵の船兵三方の
一をみて元忠水野後十郎 玄平

去番三尾宗右衛門と相謀り小泉乃
兵をうちうの軍を進ませ敵
の首を新府に集め
大将現こ乃事を聞石軍功を感ず
るあり甲州郡内を元忠に与へ
且今ごくの武勇れいこを和なり
小田原氏直西上野に伝列
数回

大将現是を聞石新府城小入氏直
と対陣し既にして和議を和議
を設せんとあり伝列沼田城を氏直
に渡さんとて氏直大道寺氏をして
甲州府中に入むる真田安房守
がいこく氏沼田城を我武勇のち
にうちくだしに応ずる
大将現は貴命にうさいも氏直小
按べうぞさなれば此ゆへ

大稙現元忠をよび大久保七郎右衛門尉
同新頭甲列弟稙門近藤四郎保利
弾正忠なりびて井伊兵部少輔
の為に木俣右衛門尉を遣せ
むし時元忠為に小原孫助中野右京亮
大澤行兵衛同吉九郎巨海孫七郎木
新八郎外八人討死
同十八年秀吉小田原進發し時淺野
弾正忠木村常陸介梶原景宗を以て関東
の諸城を攻しむ
大稙現元忠をよび本多中書平岩主計頭
を以て関東依倉右衛門尉金聽南
乃諸城をうけらしむ
將岩付乃城をかこむ淺野弾正長政
本多中書忠勝本城面をむく
平岩主計頭新郭ふむ
木村常陸介梶原景宗加和氣攻
新郭を入德川出陣をいたす

本城を攻めんとして走り出を
せし敵兵ども元忠の家臣
安藤孫四郎 寺田左兵衛 小田切又三郎 一宮
左右吏 等三十三人 討死を成さるる
者七十人なり 然ども元忠 殺さるる小
れを攻城の小糸十郎 家臣 井上
ら兵 赤降をうくいさく 鳥居 彦右衛門
を立てう兵士 城を出せし事 急
急なりこの城をまもる事

あるはぞ 城をとりかこう
の人 さづ あいさつ 鳥居
彦右衛門 元忠なり 時小 清 弾正
城をうち 出 弾正
云を 聞 城兵の
して 元忠 人を

大橋現へ言上せし
大橋現 弾正 くを
事 弾正 元忠 伺

さうまうのうちんやさのうちまこ
れゆへ弾正はいとうの城に
入
大権現関東八州御領知のゆき下給
矢倶方へとりしく不能詳るをた
まひ
秀吉奥州九郡の向のとき
大権現兵を率して奈倉しまし
元忠供奉も

元忠平生数度軍功あるうち
大権現御感状をたまはりしを元忠辞し
ていとゝ我他者にはたゝしかす
この状へ感状をもらひ人に
はこらんまをおもはさるを
大権現是を感じ給
慶長五年上杉景勝上洛せざるに
よりて
大権現御巡野のため関東御下向其時

元忠を攻めあ城別伏見の城を攻め
しむ時小西治部少輔三成と方ふを
ひく謀叛を企て流をして伏見
の城をせめしむ元忠はとめてうひ
こまをしかせず城中の悪黨ひそふ
逆徒をひき入れ城中炎上
為城を相去るべき所に郎等戦死
するものそれ数をしれず元忠も討死
此時年六十二　法名長源

忠政

新右衛門　左京亮

天正十二年長久手合戦の時元忠
甲州郡内をまもりこの時小忠政
使番の役を合敵をうちその首を
切落名をあげ
慶長七年奥州岩城十万石を給
ひ乃ち土佐野竹貫二万石を

元和八年
右徳院殿御領国高上那二千万石被
下たまふ
寛永二年因幡国高川江庄二万石を
くまなくあらため
同年　約命を蒙り浅野左京小納言
同五年九月廿六日三家ゆ
辛苦　法名宗[illegible]

家次

久五郎　左衛門尉
慶長六年甲州那内城をもて
もつて一万八千石を領
同八年　伯耆守に
叙し左衛門尉
元和元年五月廿七日摂州大坂にて
合戦の時敵兵二十八人うちとれあり

去る二月武士十八人討死仕
元和二年
台徳院殿乃叡命にしたがひて駿河
大納言忠長卿に仕へ奉りとる
寛永元年甲州府中に城を築
同八年六十二歳にして死去法名
林伯

忠勝
左近

忠頼
讃岐守　頼宣守
慶長十一年に召しめく
台徳院殿に拝謁し奉り
同十六年正月従五位下に叙せ

将軍家子孫

忠昌

伯耆守

忠房

左京八　淡路守

寛永元年　伯耆ニ従五位下

ニ叙シ淡路守ニ任ス

同八年家督を継ぐ

同十四年三十二歳ニ而死ス　法名

宗忠

忠春

内膳正

寛永十六年ニ

将軍家ニ拝

忠恒

左京亮

忠政の家督をけぎ給上二十二万石

寛永十三丙子七月七日三十三歳

かゝる辛酉　法名鉄山

忠宣

自脇坂

忠恒逝去しかなきゆゑ忠宣

家督相続ありて給上をあらた

めく位引高乃城三万石をくゝ

寛永十七年正月従五位下に叙せ

旗乃紋鳥居

幕に紋竹小笹

国立公文書館
National Archives of Japan

鳥居

その先祖別部氏熊野権現社を
勝海大長鳥居三郎重忠の子孫重忠が
出法眼重氏権現社鳥居と号す
すなわち世人号居法眼
と号そなりけり氏とも

吉守

又一郎
鳥羽法眼十六代の孫
清康君に仕へ奉る　法名静哉

吉則

又三郎
廣忠卿に仕へ奉る
文録二年廿七歳にて討死仕る

乃戦場にて
法名輕道

吉清

弥平次
天文年中吉清十六歳にてめさ
れて　廣忠公に仕へ奉る
大膳殿に仕へ奉る
天正三年長篠御陣に供奉
同八年高天神御陣に供奉

[illegible]
元亀三年三方原合戦ニ供奉
永禄元年四十二歳ニ病死
法名道泉

[illegible]

又太郎
永禄元年右次十四歳ニ[illegible]て
[illegible]

大橋現ニ法[illegible]御小姓
[illegible]
右遠院殿ニ法[illegible]言天祐御
陣ニ供奉
長久御陣ニ[illegible]
天正十九年奥州御陣ニ供奉
慶長十四年五十二歳ニて病死
法名常芳

長

又兵衛　生國武蔵

元和九年十一月廿日

將軍家ヲ二條ノ城ヲ小

十人組ヲ

右賀

[illegible]

家乃紋竹ノ小止雀

国立公文書館
National Archives of Japan

島居

正載

立花文　生國三河

廣忠卿ノ子孝

法名道當

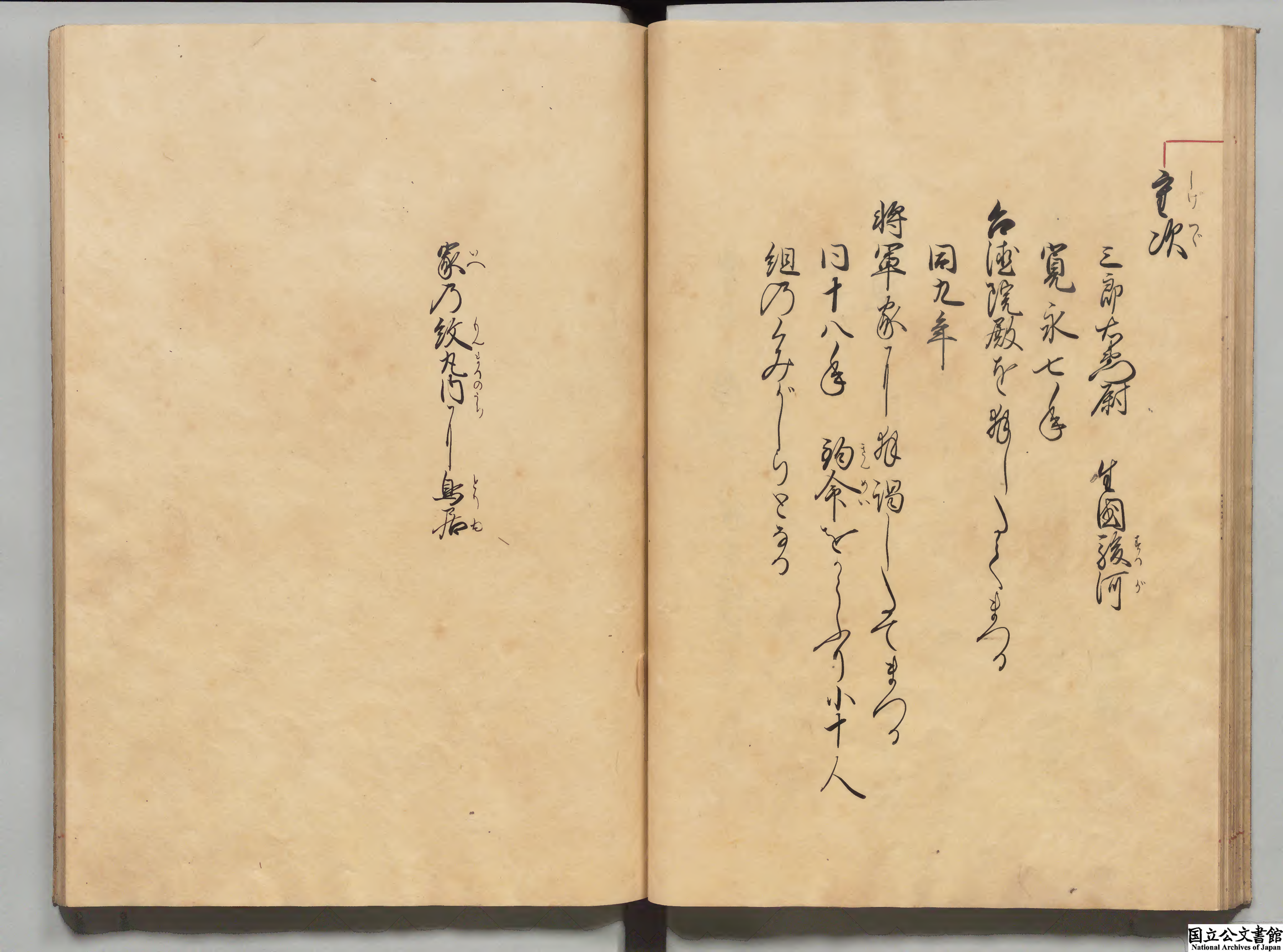
京正

又右衛門　生國同家

はゝ伝庵と申す法人なり
大稽現て法人くまゝ
元和二年十二月十九日六十八歳ゟ
〃死 法名浄志

正定

小兵衛
貴之平井新三郎次忠ゟ
立ゟ婿となり家督せくこの
ゆへ鳥居忠次次忠ゟ三男人
なり父ゟ三右衛門次忠 廣忠卿
ゟ
大稽現て法人くまゝ正定先祖
三男安祥て世法人先
まつこの ゆへ
大稽現て安祥 諸代と寄之
れも祖父ゟ先代氏祥ゟ



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

梶

●某

長十郎
廣忠卿
生国三河
[illegible]

某

長十郎

大橋親子法名[illegible]

弟

光助

大橋親子法名[illegible]

匹道

金平　後次郎兵衛と号す　三河

大橋親子法名[illegible]

嚴命ニ付[illegible]仏門中[illegible]ル法名

[illegible]者ニ[illegible]

寛長十九年二月十三日死

六十四歳　法名松巻浄白

女子

生國伊勢

渡邊善兵衛勝繩ガ妻

勝繩ニ本多英俊ヲ[illegible]

正勝

次郎兵衛尉　生國三河

大稽現

右法院殿

將軍家ニ仕ヘ奉り

寛永十六年七月十六日ニ死セ

五十二歳　法名長徹

正重

右郎太郎　生國伊勢

実ハ渡邊善兵衛ノ子ナリ　外祖父正道

ノ養子ト成リ

寛永九年八月十三日

將軍家ニ初テ御目見ヲ仕リ小十人組

番ヲ仕ル

定治

金平　生國同所

実く義治横山家の子なり亦男正勝が

養子となる

寛永四年二月

右濃院殿を始めくし御番をはたす

同六年初めくし御番をはたす

同九年より

将軍家へ一献まいる

家

次郎兵衛　生家武義

父の家督をはたす

宣勝

三郎兵衛　母北氏　梶少輔

寛永五年九月十日

将軍家へ初めまいる

同六年御切米を以
同十二年十一月晦日三十一歳にて死
其
長吉
將軍家厳命にて家督を継ぐ
家乃紋梶葉

金田

氏祐

地八郎　生国三河

廣忠卿ノ代ニ従ヒ出ル

天文十五年九月六日参列上野合戦

ノ時討死　二十二　法名

照観

祐勝

甚八郎　生國同所

廣忠卿ニつかへ

大権現ニ仕へ奉り

六十三ニて死

正勝

甚八郎　生國同所

大権現ニ召し出され大御番

をはたらしそのゝち

白浜院殿ニ仕へ奉り大御番

組頭となる歳五十四ニて死　法名

宗源

正吉

甚八郎　生國武蔵

寛長十六人

白洲院殿御事書

とはしと

元和元年大坂御陣御

徳と合戦と御陣地切戦切

と評議あり〻正右衛門〻慶長小

あつらへ地五百石を賜ふ

四長

左平次郎

寛永七年

将軍家御参詣大御番を

はかる

右次

右衛門 生駒三河守大寺

白洲院殿御法会

[illegible]時

[illegible] 生國武蔵

将軍家[illegible]

[illegible]

源兵衛

元和九年六月二十四日

名越殿[illegible]

将軍家[illegible]

家の紋[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

言井

●東

大和守　伊賀國板櫃ノ住

直清

俗名　生国伊賀

大横横ノ住人

慶長三年
城番として伏見に
同五年関ヶ原御陣乃時伏見に
城下あり
元和二年十月廿六十二
〜〜死す

清氏

立花家　生駒同家

為滝院殿下法印
関ヶ原の御陣下て一柳監物下奮て
大坂御陣乃時御書院番乃組となり
下総
寛永元年二月廿四日
死す

友清

俗左兵衛　生駒山城

寛永元年

右滝流殿ヶ一渕へ

同二年より御番をはたし

家代紋巳丸の内小二引

松田

康定

筑前守　生国伯耆
伯刑部少輔小兵衛尉

康長

兵部大丞　生国摂津

小泉氏康了法入道其家を号
りわく康長と号す
天正十八年秀吉小田原了進発
のとき足利山中城を攻落
没落せしとき自殺す　五十四歳

直長

市兵衛尉　生母同前
氏也了法入道の家を継く也長

と号す父康長山中城を攻
自殺せし故父の遺跡を継ぎ氏直
也判せし後又今了あり
文禄四年ち
大橋現了法うまり後ぐ
白浜流殿をよひ
将軍家了法うまり

長雲

源三郎　生國同前

寛永十三年三月

將軍家ゟ召出被遣

翌年正月ゟ御手洗番を仕ル

家代数二筋遣

宮城

ときは豊浦氏なり近ごろ武刀

氏城を作る故ゆえなく氏さま

攻業

中務

岩付城を右田三樂斎小象十郎

氏房小田原に移れ住ける

天正十七年六月廿三日ニ死去
歳九十五　法名永徳

為業

英俊守
小糸十郎氏房ニ仕ル
天正六年五月廿七日ニ死去
五十五　法名穆林

泰業

四郎兵衛
氏房ニ仕ル武者大将ト成
天正十九年七月十三日小病死年
三十六　法名道義

正重

平右馬
愛長十九年ニ

国立公文書館
National Archives of Japan

白川院殿御法名
寛永十一年四月廿日薨
歳五十 法名浄雲

巫女（まなこ）

五郎左衛門

亀の紋菴（いおり）井内小亀甲（こうこう）

証文

新田

五郎二郎　とゝ右馬　生忠義

上杉建芳了法入軍功ありて感状

二通ゝ面ゝ今ゝ有り

正高

与兵衛尉周防　生国同前

小弟氏康ニ仕へ軍功あり武

二通当家ニ伝ふ又氏照感状

ありしかども

大権現関東御進発被遊ときめかれ

法名道和

元和五年九十八歳にて死す

正俊

与三郎　生国同前

父と共ニ

大権現ニ仕へ奉る

寛永元年七十歳にて死す　法名浄西

正貞

孫兵衛　生国同前

白河院殿ならびに
将軍家御子法名
孫六郎　生母同前
乱
三位殿　生母同前
元和九年ら
次
将軍家御子法名
家乃欽木孔丸　母小菊

国立公文書館
National Archives of Japan

三嶋

改家

清左衛尉　生国三河

長親至て清左衛尉

改人

清左衛尉　生国同前

信忠卿法名

改次

清左衛門　生国同前

清康君　廣忠卿

三河西郡小[illegible]尾張流と御合

戦のとき　桃[illegible]

六十四歳にて病死　法名蓮入

改次

清左衛門　生国同前

大膳亮　法名[illegible]

元亀三年十二月廿二日三方原御

陣にて[illegible]敵の数に[illegible]

なりぬ

石徳院殿　法名相応

七十四歳

にて病死　法名相応

改元

清原府　生國同前

大稜院殿　毎渇を

寛長十二年より

石淵院殿　法名

元和三年より

将軍家　法名

改元

永八郎　生源武義

寛永十一年三月十八日

将軍家　毎渇を

同十七年より御書院番の組小人

衆の筋下役の九三日同

国立公文書館
National Archives of Japan

猪飼

正光

孫十郎　生國河州

義勝下法名次貞

正勝

甚助　生國同前

信長ノ法名紹鉄

光治

左京亮　生國同前

天正十四年童形演松ヲ以テ

大権現ノ御神輿ヲ

又孫元年名護屋御陣ノ供奉

ヲ

右德院殿ノ法名宗清

正利

生國同前

天正十七年演松ヲ以テ

大權現ノ御神輿ヲ

陣ノ供奉

文禄四年四十二歳ニ死ス

京匠

土部助　生國同前

文祿二年

大橋現了　渇仕

本多

関ケ原御陣了　供奉

慶長五年

台德院殿了　仕

坂御陣ノ時伏見ノ城番仕

元和四年四十二歳ゆく死

匠人

生家武蔵

元和八年

台德院殿了　仕

寛永二年

將軍家了　仕

出羽

五郎兵衛　生国同前

元和八年ニ召出され

右徳院殿ヲ頼て

寛永二年ニ

将軍家ヲ法名ニ成申候

光重

二郎兵衛　生国同前

慶長十六年ニ後府ヲ召

大猷院ヲ頼て召出され大

坂御陣ヲ供申

右徳院殿ヲ頼て

将軍家ヲ法名ニ成申候

正重

勘左衛門　生国近江

家乃紋所抜

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan